



联合国  
粮食及  
农业组织

FOOD AND  
AGRICULTURE  
ORGANIZATION  
OF THE  
UNITED NATIONS

ORGANISATION  
DES NATIONS  
UNIES POUR  
L'ALIMENTATION  
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION  
DE LAS NACIONES  
UNIDAS PARA  
LA AGRICULTURA  
Y LA ALIMENTACION

منظمة  
الغذية  
والزراعة  
للأمم  
المتحدة

#### Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,  
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101  
Facsimile: (045) 222-1103  
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

F A O (国際連合食糧農業機関) 日本事務所  
2009年6月4日

LOJAPR09/14-No. 136

## プレスリリース

### 世界の食料供給は徐々に安定しつつある しかし依然ショックを内包している可能性がある

2009年6月4日、ローマ－今年史上2番目に高い穀物収穫が見込まれ、在庫が補充される中、昨年の食料危機時に比べると世界の食料供給のショックに対する脆弱性は軽減していると見られる、とFAOは4日発表された「世界の食料需要見通し (Food Outlook)」報告書で述べた。しかし、報告書は依然潜在的な危険性は残ると指摘した。

「ここ数週間の上昇にもかかわらず、2009年にはほとんどの農産物の国際価格は2008年のピークより下落している。これは多くの市場が徐々に均衡をとりもどしつつあるということを示唆するものである」と年二回発行の報告書は述べた。

世界食料危機ピーク時の2008年6月に比べ3分の1に低下した市況の明らかな緩和は、FAO食料価格指標のベンチマークに反映された。

#### 重要な部門

報告書によれば2008年の記録的な生産が当初の予測を大幅に上回ったため、これまでのところ大部分の改善は穀物で見られた。穀物は食料安全保障にとって重要な部門である。豊作により世界の在庫は危機前の水準まで回復した。

「新しい2009/10市場年度が始ったが、史上最高の2008年に続き、今年の世界の穀物生産が史上2番目に良好だと見られることもあり、引き続き良い見通しである」と報告書は加えた。世界の生産は2008/09年の22億8700万トンに対し、22億1900万トンと見通される。

FAOの2009/10年最初の世界穀物利用見通しによれば2008/09年の推計値に対し比較的低い約1.3%の増加率で、22億3000万トンになるであろう。前期はほぼ4%の増加であった。

## 最初の見通し

2009/10 年度の最初の世界穀物貿易は前年に比べ 4% 近く下がった 2 億 5700 万トンと見通される。この減少のほとんどは、いくつかの主要な小麦輸入国において見込まれる大幅な生産の回復を反映して、今年は 1000 万トンも減る可能性のある小麦の輸入に関するものである。

もう少し問題が複雑なのは油料種子産品部門で、主要な生産国の生産不調と中国やインドでの飼料消費の増加の結果、世界市場の価格の上昇が見られる。2008/09 年の油料種子の生産は前年の推計 4 億 310 万トンより 0.7% 高い 4 億 590 万トンと予測されている。

「ここ数週間の大豆相場の急騰は、世界の在庫減少に加え、大豆相場が食料と飼料の価格に大きな影響を与えることを考えると懸念の材料となる」と Food Outlook は指摘した。

## 砂糖の需要は増加、食肉及び乳製品は減少

世界の砂糖の消費は先進国における継続的な需要により、過去 2 年に比べると増加率は小さいが、拡大することが予測される。結果として、2005/06 年以来初めて消費は 1 億 5850 万トンという 2008/09 年の生産を上回り、世界の繰越在庫は減少するであろう。

世界の粗粒穀物生産は前年の 11 億 4230 万トンから 3.8% 減少し 10 億 9850 万トンと予測される。11 億 1780 万トンと予測される利用は生産を上回るとみられる。

一方、水産物、食肉及び乳製品の価格は経済の減速と繰り返し発生する動物疾病による不安定な需要により急落した。価格は乳製品部門で特に急落した。

## 輸入による節約

そして価格の下落により、輸入国の食料輸入額は 2008 年に比べて 2009 年には最大 2260 億ドルの節約が見込まれることは歓迎すべきであるが、「経済環境の悪化が・・・（価格下落の）恩恵のほとんどを相殺してしまう」と報告書は警告した。

国際市場での価格が安くなってきたにもかかわらず、過去 12 ヶ月の大半に及んだ所得と実質為替相場の低下という複合的な要因で徐々に購買力が損なわれてきているため、食料を買うことが難しくなっている、と報告書は述べた。

現在の懸念は食料価格の上昇ではなく、特に付加価値の高い製品に関して世界的な経済の低迷が需要に与える潜在的な影響である、と Food Outlook は述べた。しかし農業部門とエネルギー・金融・為替市場のつながりが強まっているため食料価格はますます外部のショックに対し脆弱になっている。

## 上方圧力

具体的には、ここ数週間見られたアメリカドル安の継続とエネルギー価格の急反発は国際価格に再度上方圧力を及ぼす可能性がある、と報告書は警告した。

「しかし、大幅な減産とならなければ、世界の主食在庫が 2008 年より安心できる水準にあるので、食料経済はこれらの外部の状況に対して昨年ほど脆弱ではないとみられる」と報告書は付け加えた。

